

日本の海岸線を歩く会報告書

2021年11月7日
友松知宏

計画の概要

ブロック名	九州(鹿児島市坊津～指宿)／前回歩き残しの補完
歩行区間	スタート地点 : 南鹿児島市坊津／歴史民俗資料館 ゴール地点 : 鹿児島県西大山駅(指宿枕崎線)
実施期間	令和3年11月1日(火)～11月4日(火)
歩行距離	47.3 Km

メンバー

1	リーダー・記録	友松知宏(81才)	8期	090-7774-8559
2	会計	友松和子(82才)		友松の妻

概要

11月2～5日、妻和子と2人で鹿児島県坊津町～西大山駅(47.8Km)を歩いた。

前回、9月に娘の洋子と3人で薩摩川内駅～西大山(150Km)を計画したのだが、台風14号で計画が狂い、今回は、その時歩き残した区間の補完である。

当初は計画になかった鹿児島岩崎美術館を観ようと、時間を浮かすため、2日目は枕崎＝穎娃大川＝西穎娃を、JRとタクシーを使って2区間に分けて歩き、西穎娃からは今野までを2人揃って歩いた。

九州を半周した記念に開聞岳(924m)登山を計画。80歳を過ぎて、これを登り納めにするつもりであったが、果たせなかった。

地図



詳細

1 目 目



坊津町歴史資料館の前庭より坊津岬方面を望む。初日は友松単独行。

枕崎からバスで坊津歴史館に行き、15:30 枕崎に向かって折り返す。耳取峠の手前に水上 勉の {坊の津物語} の文学碑。耳取峠とは、ここで罪人の耳を切ったとの伝説による。19:00 枕崎着。和子と合流、駅前のホテルに宿泊。(9.1Km)

2 目 目



7:00 和子は JR で、友松は徒歩で出発。大川から和子は歩き、友松はタクシー。西穎娃で合流。以後二人四脚。今野から JR で指宿に移動。バスで岩崎美術館を見学。

枕崎は鯉節の産地。道沿いに工場が並び、早朝から解凍作業で活気がある。冷凍した 60 センチのカツオをフォークリフトが水槽にぶち込んでいる。(22.0Km)

3 目 目



天候がよいので、1日繰り上げて開聞岳登山に挑戦。駅前で車を借り、開聞岳へ。

ふれあい会館駐車場から4時間(標準の2倍)かかって、12:00 6合目到着。持病のメニューエル症候群で捗らず。あと 1.5Km で頂上であるが、帰路の時間を考えて登頂を断念。下りも4時間かかった。通りかかる登山者が心配して、声をかけてくれる。

4 目 目



入野駅。ここから、自然歩道に入る。

昨日登った開聞岳は樹木に遮られて、見ることができない。しかし、気温が高いため、日陰は助かる。

入野の集落で不思議な木を見た。タコ足樹と言うか、イカ足樹か? 通りがかりの女性に訊ねるが「○×□? & #」。よく分からない。(16,2Km)



海岸で地元の釣人に出会った。軽トラに大きなクーラーを積んでいるので、見せてもらったら8センチほどの雑魚。これも名前がわからない。朝から釣っていたそうだ。素人は笑うかもしれないが、ほんもんの太公望は、釣果は問わない。糸をたらしていれば幸せ。お仲間が通りかかり、また釣談義。それにしても、魚を下あごでつるす姿は、開高 健の名著「オーパ」を思い出させる。



花瀬望比公園

太平洋戦争時、南方の激戦地で亡くなった約48万人の戦死者を慰霊する場所として、昭和41年、遺族と2千人の生存者が力を集め、遙か1,900km南に比島を望むこの地に造営。島に眠る4千柱の英霊の冥福を祈り、慰霊碑を建立した。

毎年3月に慰霊祭が行われる。



自然歩道の終点は、開聞山麓自然公園の下に設けられた1Kmの地下道。なぜ地下道にしたか不明だが、自然公園の中は車を通さないという、公園を造られた岩崎與八郎氏の拘りがあったのではないだろうか。

半地下に道を掘下げ、天井に灯取の窓が開いていて、用意した懐中は使わず仕舞いだった。

地下道を抜けて街に入ったとたん、プリウス美人が車を寄せてきて、窓を開け、「小母さあん！歩いてきたんだねー！」と、びっくりするような、大きな声をかけてくれた。南国の人は本当におおらかで明るい。



日本最南端のJR駅。

構内に「幸せの黄色いポスト」があり、若いカップルが、駅前の店で切手付きの絵葉書を買って、何かを書いて、ポストに投函している。

私は、「ポストのある風景」と言う写真集を出版した友人に、土産にと、黄色いポストのミニチュアを買った。

これで、九州の半分を終わった。

残り半分（東海岸）を歩けるかどうか心もとないが、来年春から頑張ろうと思っている。歩くことは私の人生である。

観光



鹿児島島の富豪であった岩崎與八郎が、指宿市にリゾート開発した指宿観光ホテル（現：指宿いわさきホテル）の敷地に自らが蒐集した書画のコレクションを展示するための美術館を設立したものである。フランス近代絵画や黒田清輝、藤島武夫、東郷青児をはじめとする日本近代絵画の作品を展示している。[②](#)また工芸館では、郷土工芸である薩摩焼の作品や、西郷隆盛、大久保利通、東郷平八郎、五代友厚といった薩摩の英雄たちの墨書を収蔵している。

（鹿児島市観光協会）

世界的な大家が、まだ駆け出しの頃の、稚さを残した、貴重な作品群。事業に成功した岩崎氏が、若い芸術家の卵のパトロンになっていたことが窺われた。

費用

交通費	44,820_
宿泊費	14,499_
レンタカー	4,150_
観光	1,630_
食費	9,146_
雑費	440_
合計（一人分）	<u>74,685</u>

以上